

I 社是・社訓・経営理念

△コメント▽ 社是・社訓・経営理念

1 社是・社訓とは

会社経営の基本方針を単語あるいは短い文章で簡潔に表現したものを、一般に「社是」「社訓」という。

このほか、「経営理念」「経営信条」「会社綱領」「要諦」あるいは「スローガン」と呼ばれることもある。

社是・社訓は、会社の創業時に、創業者の強い信念や思想に基づいて作られることもあるが、創業後ある程度の期間が経過してから、これまでの経営の歩みを確認する形で作られることもある。

2 制定のメリット

会社は、複数の人間が集まって、経済活動を行う組織である。

年齢や出身地・出身校などが異なる複数の人間が、相互に良好な人間関係を維持し、しかも、仕事に充実感を感じるためには、共通した「行動の拠りどころ」が求められる。それが存在しないと、長期にわたって組織の一体性と相互の連帯感を保つことが難しい。

社是・社訓は、経営の基本方針を示すものである。従業員に対して、行動基準を明確にするものである。

社是・社訓は、従業員の行動を律するものであるから、分かりやすく、かつ、簡潔に表現されなければならない。

経営方針が明確に示されることにより、従業員も、行動の拠りどころが得られ、日々の仕事で充実感を感じることができるようになる。

会社は、基本的には、利益を上げるための経済的な組織体である。しかし、ただ単に利益を上げるための存在では、一般社会の信用・信頼や共感を得ることはできない。それどころか、「利益ばかりを追求し、社会への配慮が欠けている」として、批判や非難の対象となる。

しかし、「誠実」「奉仕」「貢献」あるいは「創意工夫」「共存共栄」「革新」といった経営方針を掲げ、全従業員一体となってその実現に努めれば、一般社会の信用と共感を得ることができる。

このように、広く社会と消費者の信用と共感を得られることも、社是・社訓のメリットである。

3 社是・社訓と会社の社会的責任

社是・社訓は、会社経営の基本方針を内外に示すものである。このため、社是・社訓を制定し、それを公表した以上は、会社として、その実現に最大限の努力をしなければならない。

例えば、社是を「消費者への奉仕」と定めたときは、品質に優れ、かつ、価格の安い商品を安定的・継続的に提供することにより、消費者に奉仕しなければならない。生活の役に立たないものや、品質の劣るものを生産したり、販売したりすることは絶対に許されない。

社是・社訓で示された会社経営の基本方針の実現に努めることは、会社の社会的な責任である。

I 社是・社訓・経営理念

ヤマトホールディングス

社訓

- 一、ヤマトは我なり
- 一、運送行為は委託者の意思の延長と知るべし
- 一、思想を堅実に礼節を重んずべし

社訓に込められた基本精神

- 「一、ヤマトは我なり」
ヤマトグループは、お金や設備以上に、「人」が最大の資本となつて成り立っている会社です。社員を単なる「人材」ではなく、会社の財産としての「人材」と考え、何よりも「人を尊重」します。社員一人ひとりの「和」の力、「協力・結束・調和」が、

ヤマトグループの企業としての力を生み出します。この「自分自身はヤマトという意識を持ちなさい」という言葉は、ヤマトグループの全員経営の精神を表しています。

- 「一、運送行為は委託者の意思の延長と知るべし」

ヤマトグループは、運送サービスを通して、お客様（委託者）のこころを受け継ぎ、責任と誠意とまごころをもつて、迅速かつ正確に運び、お届けすることを事業の目的のひとつとしています。この言葉は、ヤマトグループの社員一人ひとりが「どうすれば、お客様にもっと満足していただけるか？」という「興味と熱意」を常に持つことの大切さを示しています。

- 「一、思想を堅実に礼節を重んずべし」

社会生活に欠くことのできない公共性の高いサービスに従事するヤマトグループの社員は、一人ひとりが、いかに社会や生活

のお役に立てるか？”ということを、常に念頭におかなくてはなりません。そのために、「礼節（礼儀と節度）」を重んじ、社会の一員としてコンプライアンス（法令、企業倫理等の遵守）を実践していきます。

新井組

基本方針（経営理念）

新井組は、建設事業を通じて新たな価値を創造し、社会に貢献することを誇りとする。

社会のニーズに豊かな発想で応え、企画力・技術力・組織力と誠実をもつて、お得意の満足と信頼を得る。

会社の繁栄を通じて、社員の幸運を実現する。

社員の個性を尊重し、自由闊達で品格ある企業を目指す。

行動指針

進んで学び議論を尽くす
知性と創造性を磨く
誠実

質実剛健

大いなる夢と志を持つ

明朗・活発・さわやかに

挑戦と革新

指導者・経営者としての自覚と誇りを持つ

公私の別を明らかにする

鋭いビジネス感覚を持つ

東レ

企業理念

わたしたちは

新しい価値の創造を通じて

社会に貢献します

経営基本方針

お客様のために……新しい価値と高い品質の

製品とサービスを

社員ののために……働きがいと公正な機会を

株主のために……誠実で信頼に応える経営を

社会のために……社会の一員として責任を

果たし相互信頼と連携を

三菱重工

社是

一、顧客第一の信念に徹し、社業を通じて社会の進歩に貢献する。

一、誠実を旨とし、和を重んじて公私の別を明らかにする。

一、世界的視野に立ち、経営の革新と技術の開発に努める。

社是制定趣旨

昭和四五年六月一日

当社の発祥は遠く明治三年（一八七〇年）にさかのぼるが、当社の今日あるのはひとえに創業者岩崎彌太郎を始め歴代の経営者、従業員のため努力の所産である。これら諸先人の残された数々の教訓は今なお我々の脳裡に刻まれているが、今これらの先訓を思い起こし、当社の将来への一層の飛躍に備え、伝統ある当社にふさわしい社是を制定せんとするものである。

このたびの社是の文言は直接には第四代社長岩崎小彌太（いわさきこやた）の三綱領「所期奉公、処事光明、立業貿易」の発想に基づくものであるが、さらにこれを会社の基本的態度、従業員のあるべき心構えそしてまた将来会社の指向すべき方向をこの三つの観点から簡明に表現したものである。時あたかも三菱創業百年を迎え、激動する七〇年代の幕開けに際し、当社は時勢に応じ、絶えず新し

い意欲を持って前進したいと思う。ここに新たな感覚を盛込んだ社是を制定する所以である。

日清食品株式会社

企業理念

食足世平「食が足りてこそ世の中が平和になる」

食は人間の命を支える一番大切なものです。文化も芸術も思想も、すべては食が足りてこそ語れるものです。食のあり様が乱れると、必ず国は衰退し、争いが起こります。食が足りて初めて世の中が平和になるのです。日清食品の事業は、人間の根源から出発しています。

食創為世「世の中のために食を創造する」

企業にとつて最も大切なものは、創造的精神です。創造とは、新しい発想と技術によつて革新的な製品を生み出す力です。食を創り、世の為につくす。日清食品は、世の中に新しい食の文化を創造し、人々に幸せと感動を提供します。

美健賢食「美しく健康な身体は賢い食生活から」

空腹を満たし、味覚を満足させたいと思うことは、人間共通の欲求です。しかし、食に

求められるのはそれだけではありません。美しい体をつくり、健康を維持することが、食品のもつ大切な機能なのです。美しく健康な体は賢い食生活から作られます。日清食品は、食の機能性を追求し、世の中に「賢食」を提唱します。

食為聖職 「食の仕事は聖職である」

食は人々の生命の根源を支える仕事です。食の仕事に携わる者は、社会に奉仕するという清らかな心をもって、人々の健康と世界の平和に貢献していかなければなりません。食の仕事は聖職なのです。安全で美味しく、体にいい食品を世の中に提供していくことが、日清食品の使命です。

東芝グループ

東芝グループ経営理念

人と、地球の、明日のために

東芝グループは、人間尊重を基本として、豊かな価値を創造し、世界の人々の生活・文化に貢献する企業集団をめざします。

熊谷組

社訓

社業の発展を欲せば先ず信用の昂揚に努められたし
工事施工に当たっては親切を旨とし得意先の不安の除去に努められたし
相互に共存共栄を基とし一致協力して業を励み成績向上に努められたし

小田急グループ

経営理念

小田急グループは、お客さまの「かけがえない時間」と「ゆたかなくらし」の実現に貢献します

相鉄グループ

1 基本理念

【基本理念は、相鉄グループの存在理由と社業に対して提供していくべき価値について定義しています。】

相鉄グループは、快適な暮らしをサポートする事業を通じてお客様の喜びを実現し、地域社会の豊かな発展に貢献します。

2 経営姿勢

【経営姿勢は、相鉄グループの各社が基本理念に基づき、お客様、株主、社員、社会などにどのように関わっていくかを明確にしています。】

(1) 徹底したお客様視点の実践

お客様の期待を上回る商品・サービスを提供していくために、常に徹底したお客様の視点での改善に努めます。

(2) グループ連結利益の最大化

グループ各社の自立経営を前提とした連携によりグループの総合力を発揮し、連結利益の最大化をはかります。

(3) 活力ある企業風土の醸成

社員一人ひとりが力を伸ばし、チャレンジ精神にあふれた活力ある企業風土を大切にします。

(4) よりよい社会への貢献

よき企業市民として責任ある企業活動を行ない、よりよい社会の創造に貢献します。

3 行動規範

【行動規範は、相鉄グループのすべての社員が基本理念と経営姿勢を実践する際の拠り所となるキーワードです。】

「その行動は、お客様の喜びにつながっていますか？」

セコム

運営基本一〇カ条

- 1 セコムは社業を通じ、社会に貢献する。それゆえにセコムは、社会にとつて有用不可欠な企業体でなければならぬ。セコムは、社会の利益に反したり、社会の利益にならない事業を決して行わないことはもちろん、すべての企業行動について、反社会的な行動をしてはならない。
- 2 セコムは、社会に貢献する事業を発掘、実現しつづける責任と使命を有する。その発掘のため、常に社会の事象、社会の方向を凝視し、敏感でなければならぬ。実現にあたっては、あくなき可能性を追求し、いかなる困難も乗り越える旺盛な革新と実現へのエネルギーを有すること。
- 3 額に汗し、努力の結果以外の利益は、受けない。
- 4 社会は一人ひとりの人間によつて構成される。セコムも同様に一人ひとりの社員によつて構成される組織体である。いうまでもなく、一番重要なことは、社員一人ひとりが、生き活きと価値ある人生を送ることである。セコムの組織内にあつてはもちろんであるが、組織外であつても、人間尊重
- 5 セコムは他企業、他組織を誹謗してはならない。それが競合する組織体であつても同様である。競争は正々堂々とセコムらしく行ふべきである。
- 6 すべてのことに関して、セコムの判断の尺度は、「正しいかどうか」と「公正であるかどうか」である。
- 7 セコムは、常に革新的でありつづける。そのため、否定の精神、現状打破の精神を持ちつづけ絶やさぬ。
- 8 セコムは、すべてに関して礼節を重んずる。
- 9 セコムは、その時々の風潮に溺れず、流されず、常に原理原則に立脚し、凛然と事を決する。
- 10 セコムの社員は、いかなることにしても、自らの立場、職責を利用した言動をしてはならない。

セコムの要諦

- 1 セコムは、安全文化を創造する。
- 2 セコムは、常に新しく革新的である。
- 3 セコムは、自らの手で自らを変化させ、誰もが変革の担い手である。
- 4 セコムは、よく考える集中力と、より早

が基本であり、いかなる場合においても、いささかも人間の尊厳を傷つけてはならない。

く行動する習慣を育む。

5 セコムは、強靱な意思と明快なシステム思考を重視する。

6 セコムは、妥協を排し、正しさを追求する。

7 セコムは、最高の安全を提供する。

8 セコムは、顧客に心の平和を与える。

9 セコムは、プロフェッショナルであることを真価とする。

10 セコムは、可能性に挑戦する。

(注) 事例はすべて各社のホームページによる。

II 企業行動憲章

△コメント▽ 企業行動憲章

1 企業行動憲章とは

会社は、すべての法令を誠実に遵守するとともに、社会的な良識に基づいて行動することが必要である。

しかし、現実には、会社同士の競争が激しいこともあり、法令に違反したり、社会的な良識に反する行為をしたりすることがある。

会社が法令違反をすると、刑事責任を問われるのみならず、官庁との取引停止、業務の停止命令など、行政処分の対象となる。

さらに、「会社法に定める忠実義務に違反している」として、役員が株主代表訴訟の対象とされ、裁判所から多額の損害賠償を命令される可能性もある。

会社の経営方針、行動基準を具体的に明記した文書を「企業行動憲章」という。

会社は、行動憲章を作成し、会社の内外に対して、「すべての法令を誠実に遵守するとともに、社会的な良識に基づいて行動する」と宣言することが望ましい。

行動憲章を作成し、その内容を会社の内外に周知徹底することは、組織ぐるみの不正・不祥事を防止し、一般の市民や消費者や株主等から信頼と共感を得るための基本的な方策といえる。

2 企業行動憲章の内容

企業行動憲章にどのような内容を盛り込むかは、もとより各社の自由であるが、一般的には、次のようなものが盛り込まれている。

- ・ 安全で品質の良い商品・サービスを提供すること
- ・ 商品・サービスの内容を正しく表示すること
- ・ 公正な取引を行うこと
- ・ 政治および行政との間で健全な関係を保つこと
- ・ 経営情報を適宜適切に開示すること
- ・ 環境問題に積極的に取り組むこと

・ 社員の安全と健康の確保に努めること

当然のことではあるが、行動基準を定めた以上は、それに従って公正に行動することが必要である。

3 原因の究明と再発の防止

万一、企業行動憲章に違反する事案が生じたときは、社長を先頭に、組織を挙げて問題の解決に当たり、原因の徹底究明、再発の防止に努めることを明示する。

4 説明責任と関係社員の処分

会社において不正や不祥事が生じたときに、「社会的な信用が低下するから」「営業にマイナスの影響が出るから」「マスコミに叩かれるから」などの理由で、それをひた隠しに隠す会社が少なくない。しかし、そのような行動は好ましくない。会社には、説明責任があるからである。

行動憲章に違反する事案が生じたときは、社外に対してその内容を公表し、謝罪するとともに、関係社員を厳正に処分するべきである。

II 企業行動憲章

ヤマトホールディングス

企業姿勢

企業姿勢は、経営理念を達成し実現していく上で、私たちヤマトグループが社会に約束し、常に行うべき基本となる考えです。

ヤマトグループは、公平、公正な競争を通じて利潤を追求するとともに、法令、国際ルール、社会規範とその精神を遵守し、常に高い倫理観をもって行動することで、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

1 お客様満足の追求

ヤマトグループは、常にまごころを込めた良質なサービスを提供し、お客様に満足をお届けします。また、常に革新に挑戦し、社会の課題解決と生活利便性を向上する新

しいサービスを開発します。

2 お客様に対する誠実な対応

ヤマトグループは、商品・サービスの情報を適切に提供します。また、お客様から謙虚に学ぶ姿勢を大切にし、常にお客様の声に耳を傾け、迅速かつ誠実に対応します。

3 人命の尊重と安全の確保

ヤマトグループは、人命の尊重を最優先し、交通安全はもとより、安全な職場環境づくりに取り組みます。

4 働く喜びの実現

ヤマトグループは、社員が安心して働ける環境を整え、互いの人格を尊重し多様性を認め合い、活発なコミュニケーションを通じて、一人ひとりが自発性を発揮し働く喜びにあふれる企業をめざします。

5 法の遵守と公正な行動

ヤマトグループは、事業活動を行うすべての国・地域で適用される法令・ルール、

社会規範とその精神を遵守し、高い倫理観をもって公正・誠実に行動します。万一、企業不祥事が発生したときは、経営者自らが、率先し責任をもって原因究明と再発防止を実行します。

6 地域社会から信頼される企業

ヤマトグループは、地域社会から信頼される事業活動を行うとともに、豊かな地域づくりに貢献します。特に、障がいのある方を含む社会的弱者の自立支援を積極的にを行います。

7 事業を通じた社会への貢献と環境保全の推進

ヤマトグループは、人類共通の課題である環境問題に対して、事業を通じて解決を図り、持続可能な社会の実現に積極的に貢献します。

8 パートナー・取引先との公正な関係

ヤマトグループは、パートナーや取引先を、客観的情報に基づく総合的な判断と社会規範に則って適正に選定するとともに、公正で透明な取引関係を確保し、共存共栄をめざします。また、反社会的勢力との関係は一切もちません。

9 会社資産管理と情報開示

ヤマトグループは、社会から信頼される企業をめざし、会社資産の管理・保護を徹底するとともに、会社情報を適切かつ公平に開示します。

10 個人情報の保護

ヤマトグループは、個人情報保護に関する方針を自主的に定め、適切な管理と保護を徹底します。

11 適正な記録作成と情報の管理

ヤマトグループは、業務に関連する記録・報告を適正に行うとともに、会社の情報資産について、法令や社内ルールに従って適切に管理します。

12 ステークホルダーとの共存共栄

ヤマトグループは、あらゆる事業活動において人権を尊重するとともに、すべてのステークホルダーとの積極的なコミュニケーションを通じて、共存共栄を実現します。

新井組

行動憲章

1 社会的に有用な技術やサービスを安全性や情報保護に十分配慮して、開発・提供し、顧客の満足と信頼を獲得する。

2 公正・透明・自由な競争と適正な取引を行い、また政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。

3 株主はもとより広く社会に企業情報を積極的にかつ公正に開示する。

4 従業員の個性等を尊重し、安全で働き易い職場を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。

5 環境問題は企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的積極的に行動する。

6 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。

7 反社会的勢力や団体とは毅然として対決する。

8 経営トップはこの憲章の遵守を率先垂範し、実効ある社内体制を整備し、企業倫理の徹底を図る。

9 この憲章に反する事態には経営トップ自ら解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明・再発防止に努める。

社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。

東レ

企業行動指針

安全と環境

安全・防災・環境保全を最優先課題とし社会と社員の安全と健康を守るとともに持続可能な社会の実現に貢献します。

倫理と公正

社会的規範の遵守はもとより、高い倫理観と強い責任感をもって公正に行動し社会の信頼と期待に応えます。

お客様第一

お客様に価値の高いソリューションを提供しお客様との満足と世界最高水準の品質を追求します。

革新と創造

企業活動全般にわたる継続的なイノベーションを図りダイナミックな進化と発展を目指します。

現場力強化

相互研鑽と自助努力により企業活動の基盤となる現場力を強化します。

連携と共創

グループ内の有機的な連携と外部との戦略的な提携により新しい価値を創造して社会とともに発展します。